

## 「放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会」について（案）

### 1. 概要

福島原発事故に起因する健康被害の未然防止に関しては、未だその体制が構築されていない。福島県の「県民健康管理調査」は、目的が「不安解消」となっており、放射線の影響は「極めて少ない」ことが前提となっている上に、小児の甲状腺調査のみ照準をあてたものとなっている。調査内容や手法についても多くの批判がある。

また、福島原発事故後に採用された「年間 20mSv」という避難基準についての検証は行われておらず、原発の再稼働に向けて、緊急時放射線防護の基準が現在、原子力規制委員会で議論されているところである。

本事業においては、住民の健康管理の在り方や、被ばく基準などに関して、独立した検討を行うことを目的とした市民・専門家委員会を設置する。委員は放射線影響の専門家や医療関係者、弁護士、福島の被災者、市民団体の代表などで構成する。

本委員会は、県民健康管理調査や原子力規制委員会の議論や検討結果をレビューし、下記の提言を行うものとする。

- 1) 現行の福島県県民健康管理調査に対する緊急提言
- 2) 福島原発事故における被ばく・医療問題の検証
- 3) 原子力規制委員会による防災指針や緊急時モニタリング、被ばく防護などに関する議論・決定の検証および対案の提示

また、この検討プロセスや結果を発信することにより、広く社会全体に対して問題提起を行う。

### 2. 委員候補（案）

村田三郎／阪南中央病院 副院長

崎山比早子／高木学校、元放射線医学総合研究所主任研究官、医学博士

山田真／小児科医、子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク代表

高松勇／小児科医、小児科医医療問題研究会、子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク

島蘭進／東京大学大学院人文社会系研究科教授

福田健治／弁護士、福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク

吉田由布子／「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク

中手聖一／子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

高橋誠子／福島在住

阪上武／福島老朽原発を考える会

### 3. スケジュール（案）

2013年2月末または3月上旬までをめどに

「福島県県民健康管理調査の問題点および健康管理のあり方」に関する緊急提言作成・発表  
それ以降の作業：上記緊急提言を踏まえより詳細な提言書を作成

### 4. 呼びかけ団体

国際環境 NGO FoE Japan

福島老朽原発を考える会

福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク（SAFLAN）

※事務局：国際環境 NGO FoE Japan 渡辺瑛莉、満田夏花 090-6142-1807

Tel: 03-6907-7217（平日・日中） Fax: 03-6907-7219

〒171-0014 東京都豊島区池袋 3-30-22-203